

#2 継承

ずっと見守ってきた
まちの応援団
変わらぬ思い

ファンやサポーターだって
まちを変えられる。
ともにまちの未来を
考えていこう。

「関係人口」をテーマに
全国で初めて取り組んだ「ふるさと住民票」。
それを「まちの応援団」としてとらえるなら、
ふるさとを遠く離れても
ずっと見守り続けてきた人たちがいる。

小谷誠さん
(兵庫県神戸市在住)
ひの郷会代表世話人。
今年もふるさと住民票
登録者を招き交流会を
開く予定という

日野町出身者などの関西地区在住者の集いとして、平成4年に発足した「ひの郷会」。関係人口という概念が生まれる前から、ふるさととの自然に愛着を持ち、まちの発展を願い、つながりを大切にしてきた。

「ひの郷会」の活動を簡単に教えてください。

小谷 大阪や兵庫、奈良、三重などにいる会員相互の親睦や町との交流を目的にさまざまな活動を行ってきました。高齢化などにより年々その数は減っていますが、今年もふるさと住民票登録者の皆さんとの交流会や星空観望会などを計画しています。

「皆さんはふるさと住民票の登録者でもあります。制度がスタートし、感じたことは何でしょうか。」

小谷 ふるさと住民票登録者との交流会で新しい顔を見かけるたびに、日野とつながりのある人が多いなど実感します。ただ、私たちも含めそこから一歩踏み出し、いろいろな提案ができたかと考えています。――たとえばどんなことが浮かびますか？

小谷 ねう祭りの際、神戸に住む友だちを連れて帰省したのですが、踊りや間近で見られる花火など、田舎ならではの夏祭りに大変感動していました。ほかにも豊かな自然など誇れるものがたくさんあります。それらをふるさと住民票の皆さんをはじめ多くの人に紹介できたら。まずは、日野町を思ってくれる人、ファンやサポーターを少しずつつくっていくことが大切だと思います。



1) 大阪で開かれた「ひの郷会」と「ふるさと住民票」合同の交流会。町長や町の特産品生産者らも交え、まちづくりについての意見や提案などが語られた
2) ひの郷会会員による自作の天体望遠鏡を使った星空観望会。地元や帰省中の親子らでにぎわう

3年前に全国に先駆けスタートしたふるさと住民票制度。移住や定住はハードルが高いという人にとって気軽に応援ができるという、まさに今の時代にフィットした考え方だ。

— まずは制度の概要と現在の会員数を教えてください。

生田 町出身者や町内へ通勤・通学していた人、ふるさと納税者など、町にゆかりのある人にまちづくりに参加してもらおうというものです。登録者には広報紙やイベント情報などの送付、パブリックコメントへの参加などの特典を用意しています。



生田翔平
企画政策課主事。4月からふるさと住民票を担当。そのほか、移住定住・空き家対策を担当する

入澤真人
産業振興課副主幹。前ふるさと住民票担当者。4月から主に町の観光を担当

登録者は、導入から3年目の目標である住民の1割・300人を超えました。

— これまでの成果とこれからの展開を教えてください。

入澤 町では、関係人口を「町の応援団Ⅱファンクラブ」としてとらえてきました。交流会の開催や情報発信を通し、着実に町のことを思ってくれる人が増えてきていると感じます。今後は、この事業をさらに拡充していきたいと考えています。

— たとえば、どんなことを計画していますか？

入澤 昨年度は、同制度を導入して

ふるさと住民票

ゆかりある皆さんとまちづくり

【提供するサービス】

- ・ふるさと住民票の発行
- ・町広報紙などの発送
- ・パブリックコメントへの参加
- ・町内イベントなどの紹介、参加案内 など

【対象者】

- ・日野町出身者
- ・日野町に通勤、通学していた人 など

問合せ先 / 役場企画政策課
(電話 0859-72-0332)
<https://www.town.hino.tottori.jp/2585.htm>



鳥取県 日野町

いる四国地方の香川県三豊市と三木町、徳島県の勝浦町、佐那河内村と「ふるさと住民票実施自治体ネットワーク」をつくりました。

生田 町独自では、関西圏の登録者向けのモニターツアーを計画しています。オシドリや金持神社、根雨のまちなみといった観光資源や町の現状を知ってもらい、地域の課題解決に向けた取り組みを一緒にできたらと考えています。

入澤 今後も町のさまざまな情報を発信し、関心を持ってもらいたいですね。そして、いつかはファンの皆さんやその家族の移住・定住、ふるさと納税などに結びついていくことを期待しています。